




クラウドVDI

Cloud Virtual Desktop Infrastructure

クラウド型仮想デスクトップサービス





「テレワーク」 改めて検討してみませんか。



新型コロナウイルスの拡大に合わせて、就業者の働き方は大きく変化しました。中でも「テレワーク」は、多くの企業が急ピッチで導入を進め、社会に定着した新たな働き方の一つと言えます。しかし、新型コロナウイルスに対して社会が一定の理解を示しつつある現在、企業のIT担当者はこうも言います。

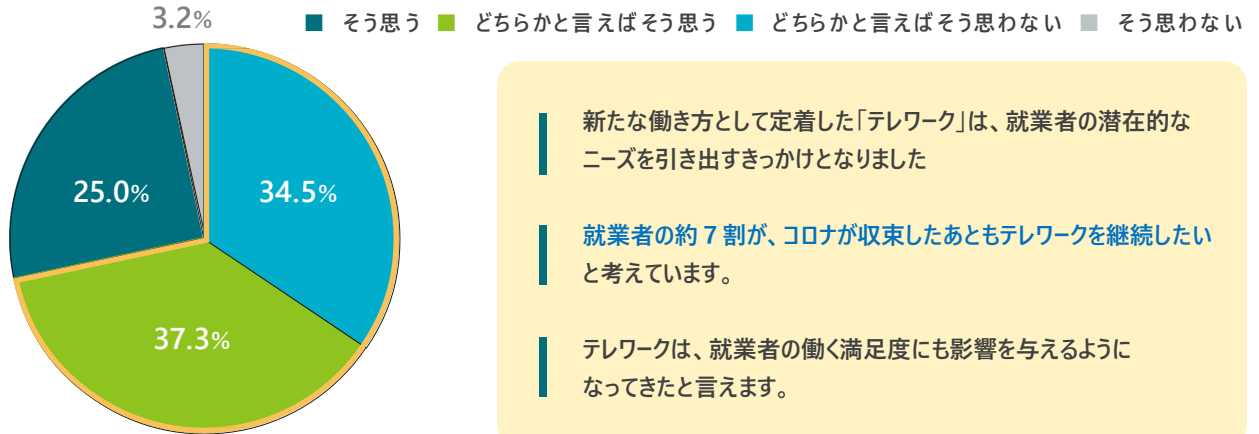
「これまでよりセキュリティに気を遣わなければならなくなった。」
「管理するデバイスが増えて、運用にかかる負荷が爆発的に増えた。」

このような声に後押しされるように、「テレワークを続けるべきか」と、その継続性自体に疑問を感じる声も出てくるようになりました。この社会課題に対する一つの答えが

クラウド型デスクトップサービス「クラウドVDI」です。

クラウドVDIなら、わずかな管理負荷で強固なセキュリティを確保しながらテレワークを取り入れられます。クラウドVDIを活用して、社員一人ひとりに寄り添った、最適な働き方を見つけていきましょう。

コロナ禍収束後もテレワークを続けたい就業者は約 7 割



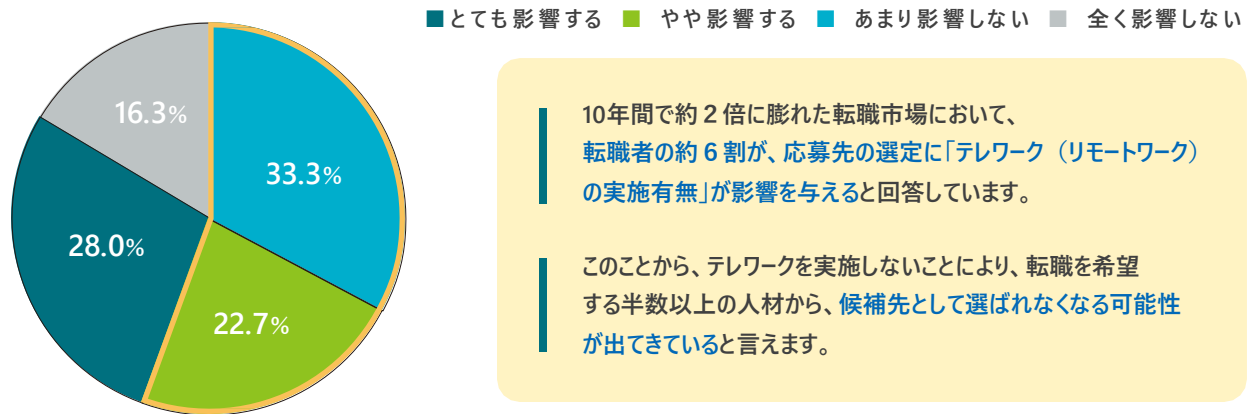
公益財団法人日本生産性本部 (2022)
「第9回働く人の意識に関する調査」を基に作成

新たな働き方として定着した「テレワーク」は、就業者の潜在的なニーズを引き出すきっかけとなりました

就業者の約 7 割が、コロナが収束したあともテレワークを続けたいと考えています。

テレワークは、就業者の働く満足度にも影響を与えるようになってきたと言えます。

転職者の約 6 割が応募意向に「テレワークの実施有無」が影響すると回答



転職サービスdoda (2021)「リモートワーク・テレワーク企業への転職に関する調査」を基に作成

10年間で約 2 倍に膨れた転職市場において、転職者の約 6 割が、応募先の選定に「テレワーク（リモートワーク）の実施有無」が影響を与えると回答しています。

このことから、テレワークを実施しないことにより、転職を希望する半数以上の人材から、候補先として選ばれなくなる可能性が出てきていると言えます。

一方でテレワークを取り入れる場合のIT担当者の悩みは尽きません。

テレワークで利用するパソコン



- 会社のパソコンを持ち帰らせるべきか・・・
- 追加でパソコンを調達するにもお金がかかるし・・・

テレワークにおける物理的なセキュリティ



- パソコンを紛失したらどうしよう・・・
- 盗難のリスクにはどう対応しよう・・・

テレワークにおけるデータ漏洩対策

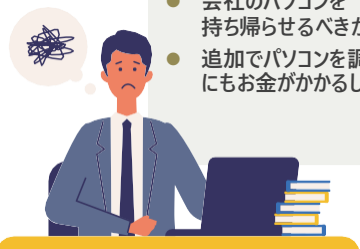


- 個人宅の情報セキュリティは大丈夫かな・・・
- 個人所有のパソコンから会社のパソコンにアクセスさせるのは怖い・・・

増え続けるハードウェアの管理工数



- 導入したサーバは数年経ったらまた取り換えないといけない・・・
- IT担当者が減ってきているのに誰が対応するのか・・・



これらの悩みを解決するソリューションがクラウドVDIです。



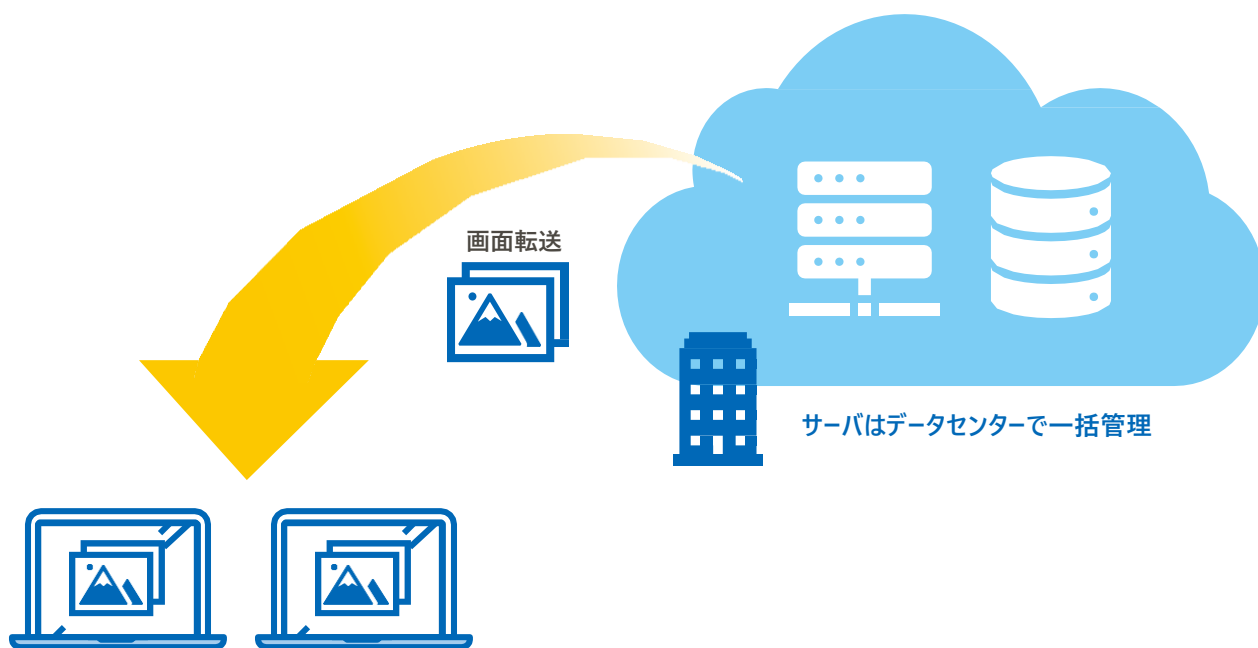
Citrix DaaS Standard
for Azure

クラウドVDIを取り入れると、
より安全に、簡単に、それでいて運用も手軽に
テレワークを導入できます。

クラウドVDIとは

従来のオンプレミス環境上で構築していたVDI※を、
パブリッククラウド上で構築したものを指します。

※Virtual Desktop Infrastructure の略で、サーバー上にあるデスクトップ環境を遠隔地にあるクライアント端末に転送して利用する技術のこと。
クライアント端末で最小限の処理を行い、プログラムの実行のほとんどをサーバー側で行うシステムを構成できる

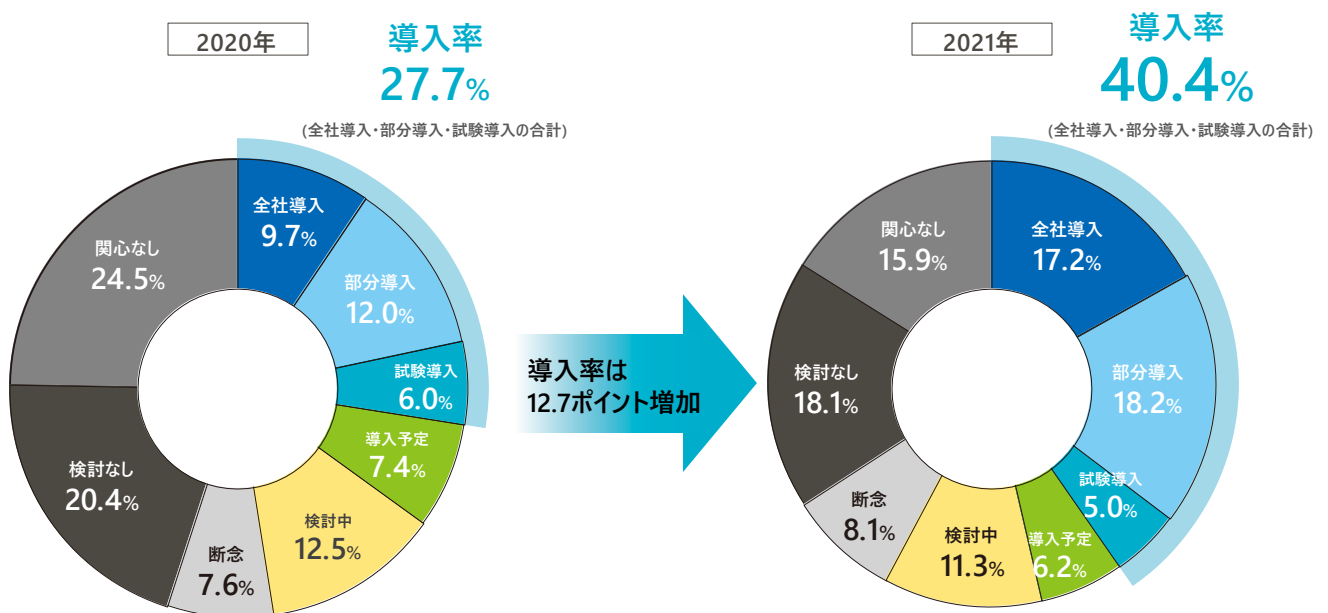


Microsoft におけるクラウドタイプの仮想デスクトップ市場動向



日本国内における仮想デスクトップ市場動向

仮想デスクトップ市場は日本国内でも広がりを見せており、今後もVDI に対する市場のニーズは加速度的に増加していくものと考えられます。



※IT管理者 (事前調査)を対象とする ※2020年の数値は2020年に実施した調査に基づく
 ※参照: <https://www.idc.com/getdoc.jsp>

クラウドVDIは IT担当者の苦悩を突破するソリューション

テレワークを継続したいが、
考慮しなければならない課題が山積みになっている。これ以上の業務負荷の増大は避けたいと思っている。
そんなIT担当者の救世主「クラウドVDI」についてご紹介します。



クラウドVDI
の特徴

1 利用するデバイス

なんでもOK！
デバイスに依存しません。

クラウドVDIはブラウザ経由でもアクセスが可能で、OSの依存もありません。
MacでもChromebookでも自分のデスクトップ環境を利用できます。



- 会社のパソコンを持ち帰らせるべきか...
- 追加でパソコンを調達するにもお金がかかるし...



デスクトップPC



ノートPC



タブレット

デバイスはなんでもOK！
OSもなんでもOK！



2 物理的なセキュリティ

ハードウェアはデータセンターで管理！
画面転送だけなので、デバイス紛失時も安心です。



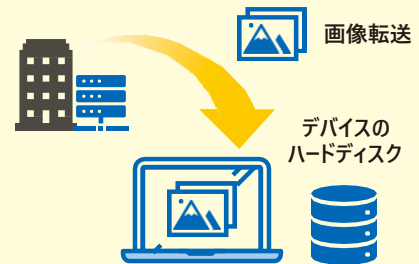
- パソコンを紛失したらどうしよう・・・
- 盗難のリスクにはどう対応しよう・・・



クラウドV D Iで運用するサーバーはデータセンターで厳重に管理されています。



万一、利用するデバイスを紛失しても、画面転送されているだけなので、デバイスにデータは残っていません。



データは保存されない！



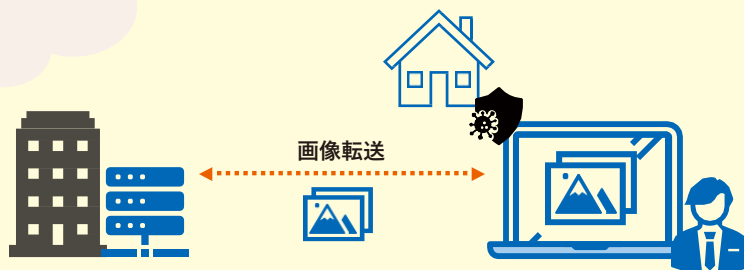
3 データ漏洩対策

デバイス側がマルウェア感染していても不正侵入の心配はありません！

万一、個人宅のパソコンがマルウェアに感染していたとしても、利用するデバイスにはデスクトップ画面が映っているだけなので、不正侵入の心配がありません。



- 個人宅の情報セキュリティは大丈夫かな・・・
- 個人所有のパソコンから会社のパソコンにアクセスさせるのは怖い・・・



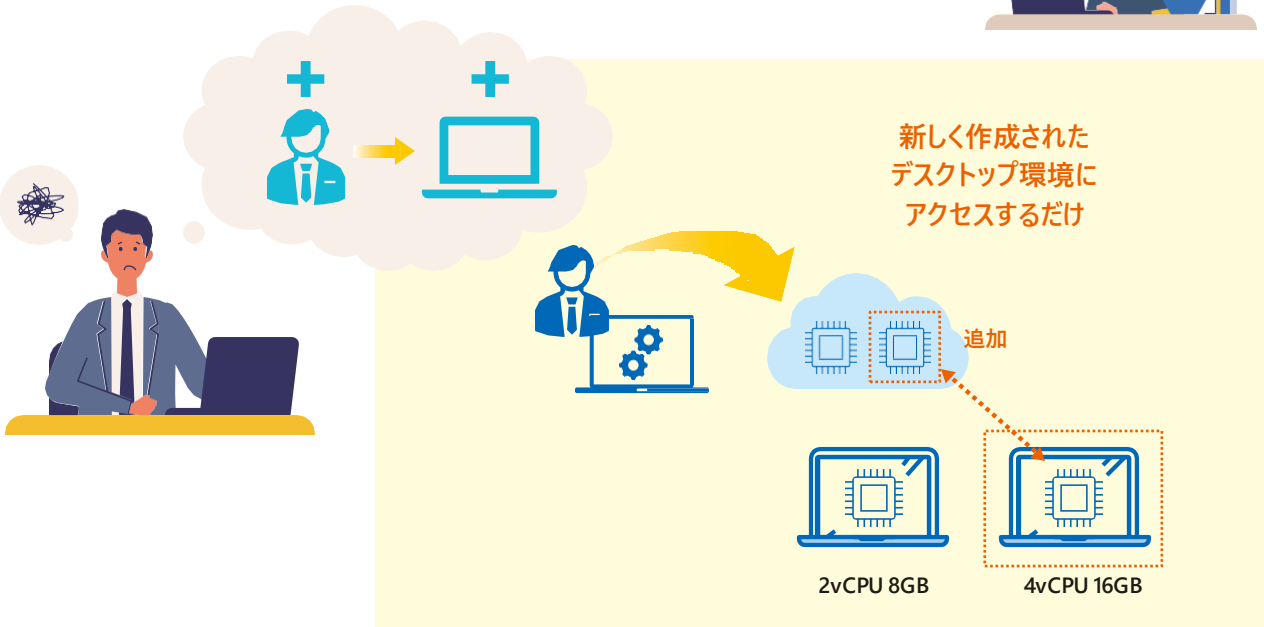
画面が映っているだけなので、企業のネットワークに侵入されない！



4 仮想デスクトップの追加

仮想デスクトップの追加は管理画面の操作のみ！利用者の操作もとても簡単です。

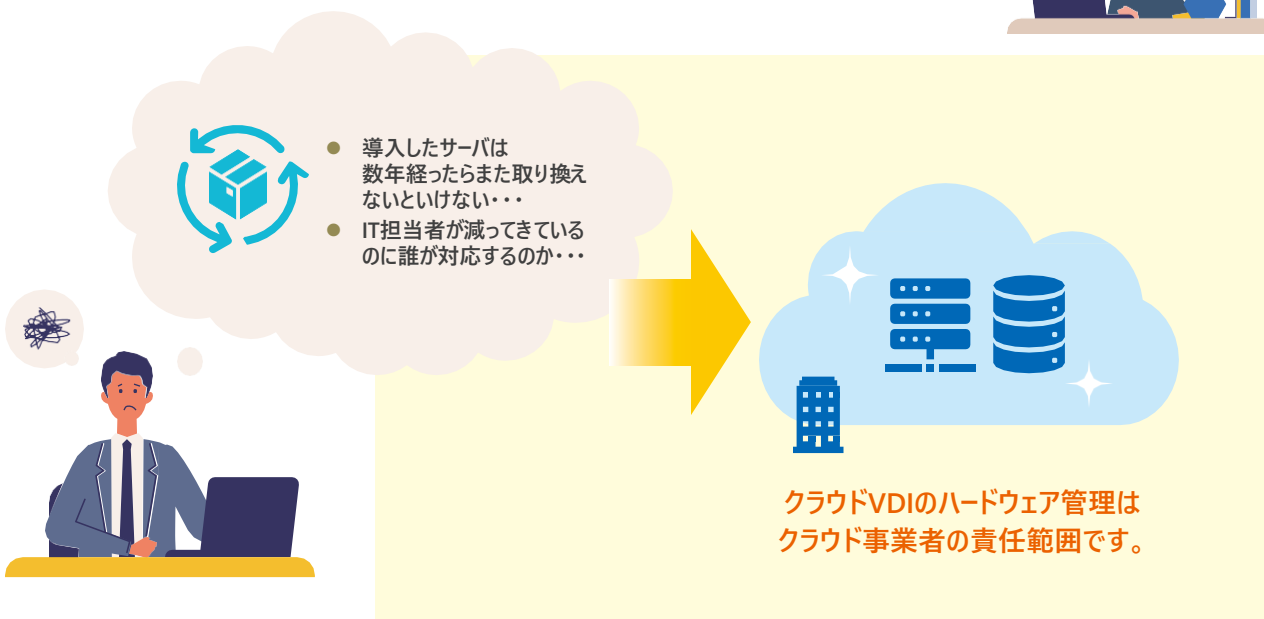
一時的な社員の増加に対しては、管理者が新しくリソースを作成するだけで、すぐに新たなデスクトップ環境を利用できます。また不要になれば、作ったリソースを削除するだけです。組織外からの人材受け入れ時や、新入社員の入社時にも迅速かつ簡単に対応できます。



5 サーバのリプレースが不要

サーバの管理はクラウド事業者が対応してくれます。

オンプレミスのVDIを導入すると、必ずついてまわるのがサーバのリプレースです。しかし、クラウドVDIなら、サーバは全てクラウド事業者が管理するので、IT担当者のリプレース対応は不要になります。

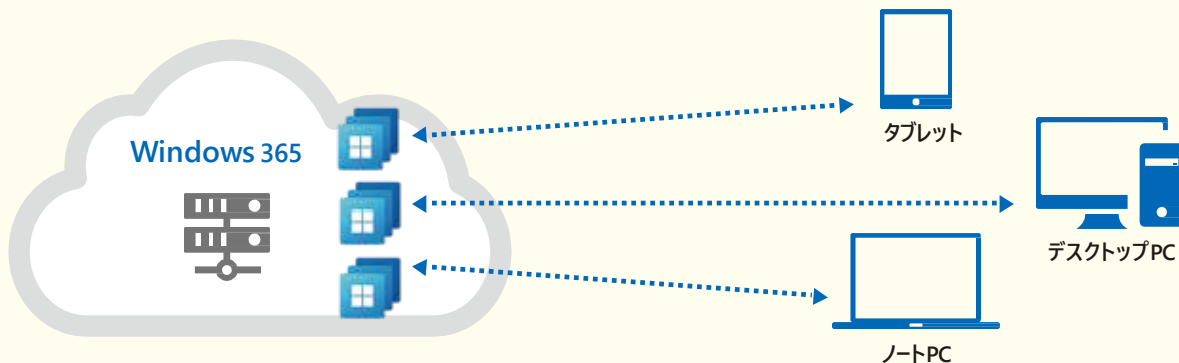


01



Windows 365

インターネット環境さえあれば、自分のデスクトップ環境に接続できるクラウドVDI（クラウドPC）サービスです。クラウドVDIに必要な機能がオールインワンになっているため、VDIの知識がなくても簡単に導入できるのがポイントです。機能に応じて、BusinessプランとEnterpriseプランをご選択いただけます。



Windows 365 Business

小規模ユーザー向けに必要な機能が網羅されたオールインワンのクラウドVDIです。

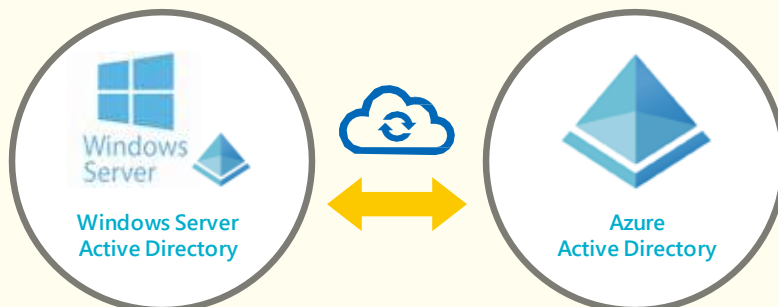
- VDIのことはよくわからない、利用するユーザー数がそこまで多くない、でも強固なセキュリティでテレワークを行いたい、そんな組織にぴったりなクラウドVDIサービスです。
- ユーザー数が300までと限定されていますが、初期投資がほとんどいらず、管理者のリテラシーを必要としないため、大規模ユーザーの一部門での利用にも適しています。



Windows 365 Enterprise

Windows 365 Businessではちょっと物足りない。そんなときにはWindows 365 Enterpriseがおすすめです。

初期投資がわずかで、管理者のリテラシーが不要な点はWindows 365 Businessと全く変わりませんが、ユーザー数が無制限なので、幅広い組織でご利用いただけます。オンプレミスのActive Directoryと連携できるため、既存のAD環境を活かせる点は是非活用したいポイントです。

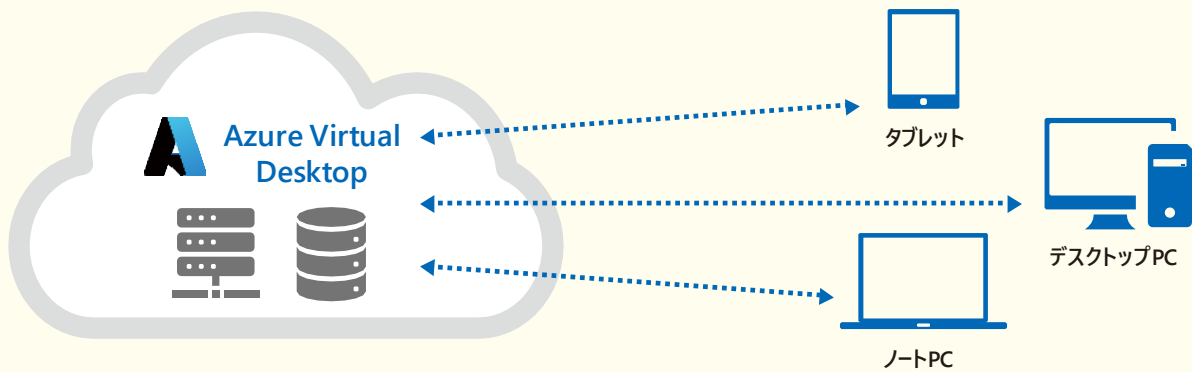


02

A

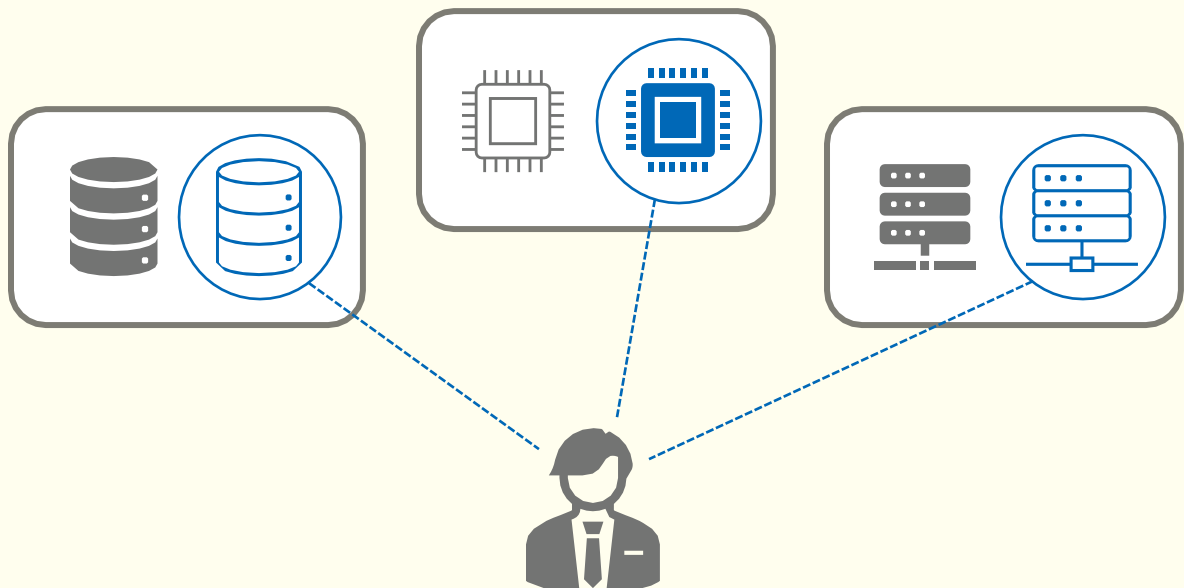
Azure Virtual Desktop

Azureの堅牢な環境上に構築されたVDIサービスです。
マルチセッションである点や、利用者に応じてリソースのサイジングができる点など、**拡張性の高さ**がポイントです。



自社に合わせてカスタマイズできる、拡張性に優れたクラウドVDIサービスです。

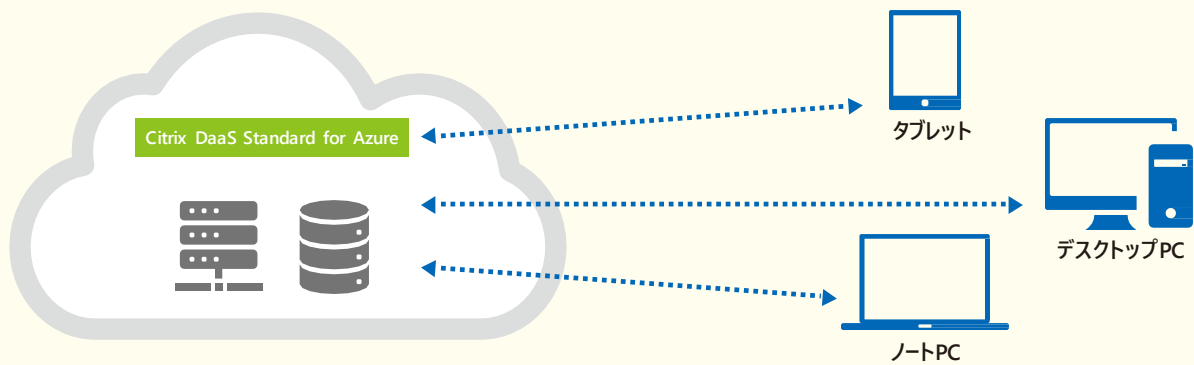
- 利用者ごとに使うリソースをカスタマイズできるため、組織内の様々なニーズを拾い上げて運用することができます。
- マルチセッションなので、ひとつの仮想基盤に複数のユーザーが相乗りでき、リソースの最適化が実現できます。
- 環境の構築・運用にVDIの経験値が必要になります。



03

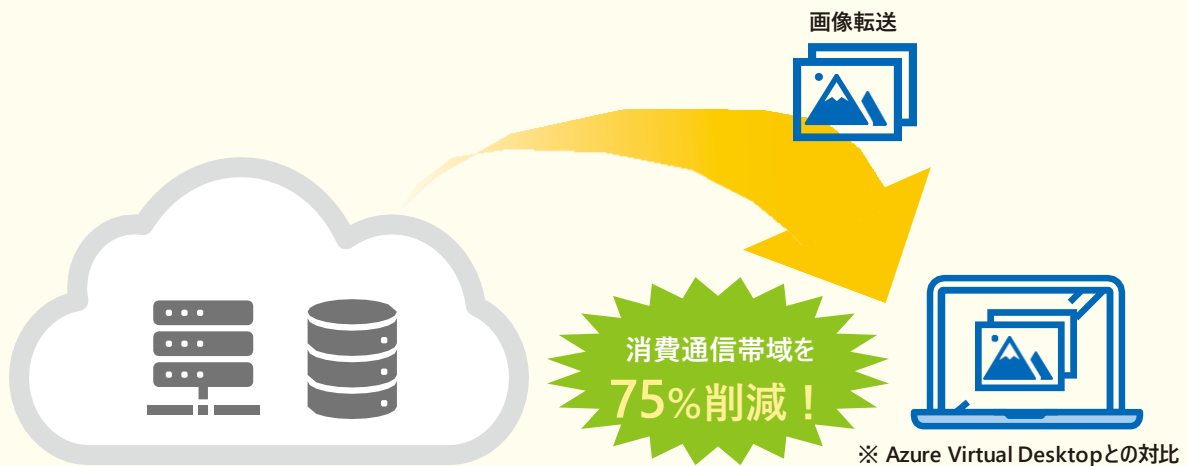
Citrix DaaS Standard for Azure

Microsoft × Citrix の強固なパートナーシップにより提供される、クラウドVDIサービスです。
Citrix が長年培った画面転送技術により、画面転送にかかる通信帯域を節約できます。またPC操作の快適性が抜群な点は利用者から喜ばれるポイントです。



Citrix の画面転送技術が最大限に活かされたクラウドVDIサービスです。

- Citrix社が長年培ってきた画面転送技術により、帯域消費量の激減が期待できます。実際に他のクラウドVDIと比較して、消費通信帯域を約75%削減※することができています。
- Microsoft Teamsだけでなく、ZoomやWebexなど、さまざまなWeb会議ツールをサポートしており、Teamsユーザー以外でも安心してご利用いただけます。
- ユーザーアクセスをトリガーに電源管理ができるため、IT担当者の負担を大きく軽減できます。
- Citrixのシンプルな管理ポータルで設定や運用管理が簡単にできます。
- 環境の構築・運用にVDIの経験値が必要になります。



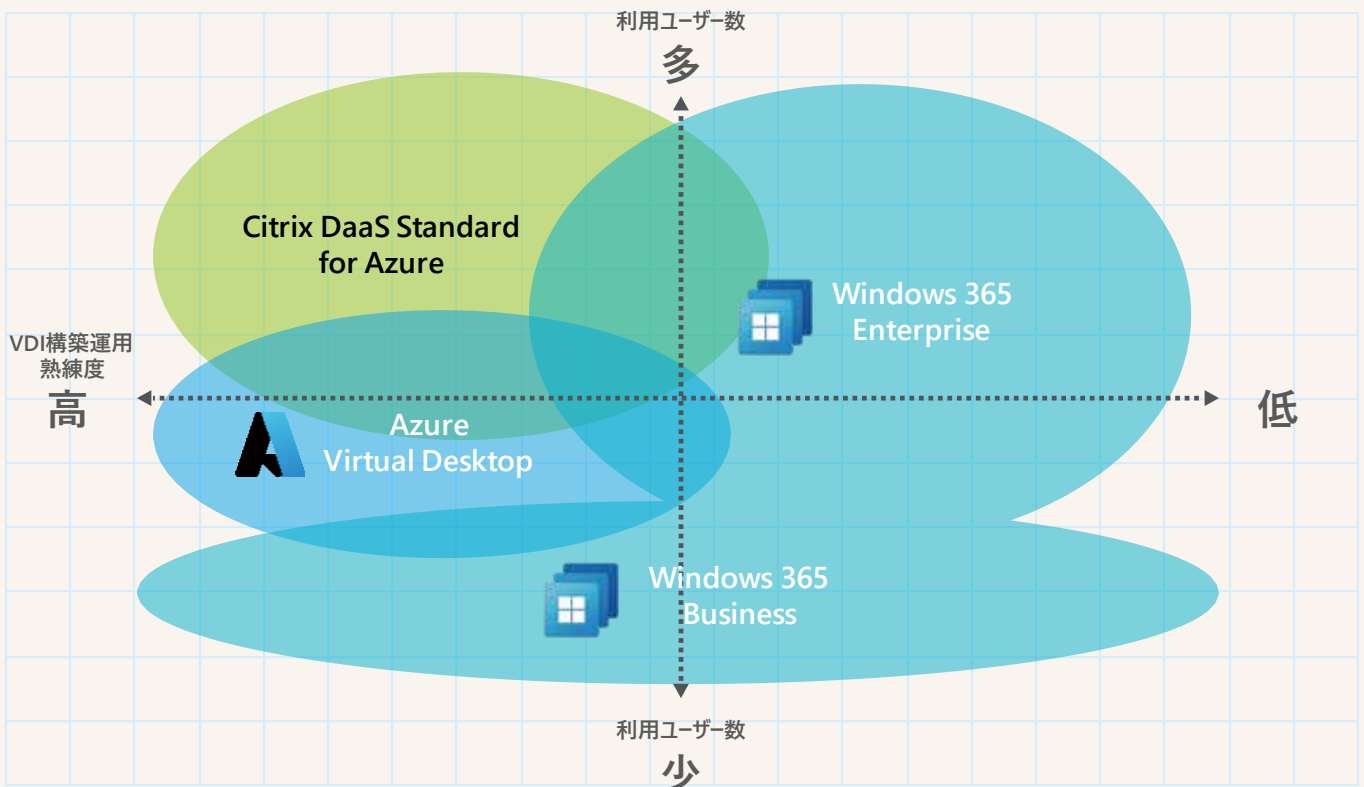
クラウドVDIの比較

	Windows 365 Business	Windows 365 Enterprise	Azure Virtual Desktop	Citrix DaaS Standard for Azure
ユーザー数	1~300	1~上限なし	1~上限なし	25~1,000
セッション方式	シングルセッション		シングルセッション マルチセッション	
オンプレミスADとの接続	不可	可能	可能	可能
導入難易度	VDIの経験やスキルは不要		VDIの構築運用経験が必要	
課金方式	ユーザー単位の月額課金	ユーザー単位の月額課金 + Azure従量課金	Azure従量課金	ユーザー単位の月額課金 + Azure従量課金
強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての機能がオールインワン ● VDIのスキルが不要 ● シンプルな課金体系 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての機能がオールインワン ● VDIのスキルが不要 ● オンプレミスのAD環境を活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● リソースのカスタマイズが可能 ● マルチセッションによりリソースを効率的に利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 少ない帯域で高パフォーマンスなVDIを利用可能 ● 様々なWeb会議ツールをサポート ● ユーザーアクセスをトリガーにしたスケジュール管理が可能

← 容易性
拡張性 →
本格的なVDIをシンプルにお求めやすく

← PCの移行先として選択するのがおすすめ!
オンプレミスVDIからの移行先として選択するのがおすすめ!

TD SYNTEX が考える各クラウドVDIサービスのターゲット



料金シミュレーション（利用する仮想デスクトップが100台の場合）

ユーザーあたりの利用料（2022年10月現在）

	Windows 365 Business	Windows 365 Enterprise	Azure Virtual Desktop	Citrix DaaS Standard for Azure
仮想デスクトップクライアントOSライセンス	不要	Windows 11 Enterprise E3 ¥760		
クラウドVDIライセンス	Windows 365 Business 2vCPU/RAM 8GB Storage 128GB ¥5,570	Windows 365 Enterprise 2vCPU/RAM 8GB Storage 128GB ¥5,570	※Azure利用料に含まれる	Citrix DaaS Standard for Azure ¥2,200
Azure利用料	不要	帯域幅 ¥330	帯域幅 ¥330 Azure Virtual Desktop ¥7,381	帯域幅 ¥330 Azure Virtual Desktop ¥7,381
その他必要機能	不要	Microsoft Intune ¥870 Azure AD Premium Plan1 ¥650	Microsoft Intune ¥870	Active Directory (Azure上の仮想マシンで運用) ¥495
月額利用料	¥ 5,570	¥ 8,180	¥ 9,341	¥ 11,166

<仮想デスクトップのスペック>

全台 2vCPU / RAM 8GB / Storage 128GB 相当のスペックで利用できることを想定している。仮想デスクトップは月間220時間（10時間×22日）稼働するものとしている。

<Azureの条件>

東日本リージョンを選択している。アウトバウンド帯域は20GB/月・ユーザーで算出している。Azure環境とオンプレミス環境とのVPN接続はないものとしている。

ユーザー単位で課金されないリソースは、その合計金額を仮想デスクトップ数で割った金額を掲載している。

クラウドVDI・クラウドPCの自動診断ツール

TD SYNnexでは、クラウドVDI・クラウドPCの自動診断ツールをご用意しております。

利用状況にあわせて、最適なクラウドVDIツールの選定と想定費用の計算をお手伝いします。

御社の場合は...?
最適な選定と想定費用を
自動診断します！



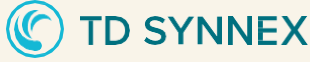
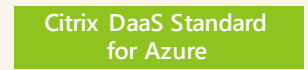
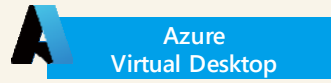
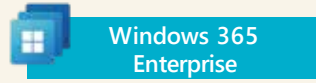
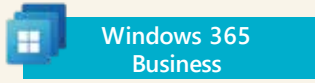
クラウドVDIとクラウドPCの 比較・おすすめ製品

自社に適したクラウドVDI・クラウドPC 自動診断ツール >

● 料金のシミュレーションは、こちらから ●
<https://www.synnex.co.jp/solution/vdi/>

クラウドVDI 導入支援サービス

TD SYNEXでは、Windows 365, Azure Virtual Desktop, Citrix DaaS Standard for Azure
いずれにおいても、導入支援サービスをご利用いただけます。



Windows 365 導入支援サービス

Windows 365 Business 導入支援ベーシックパック

Windows 365 導入支援ベーシックパック		想定販売価格 (税抜) ¥476,000
Windows 365 構築	ライセンス割り当て	
	OS 設定	
	アプリケーション追加	Microsoft 365 アプリ
		Teams
		OneDrive
基本操作 マニュアル		PDF リーダー
		ファイル圧縮・展開ソフト
		管理ポータル概要
		ユーザー追加手順
		Windows 365 接続方法

個別要件にあわせて、
カスタマイズでのご提案も可能です。

Windows 365 Enterprise 導入支援スタンダードパック

Windows 365 導入支援スタンダードパック		想定販売価格 (税抜) ¥680,000
Azure 環境構築	仮想ネットワーク設定	
	オンプレミスとの接続	VPN 設定
Windows 365 構築	Intune 設定	
	Azure AD Connect 構築	
	OS 設定	
	アプリケーション追加	Microsoft 365 アプリ
		Teams
		OneDrive
		PDF リーダー
基本操作 マニュアル		ファイル圧縮・展開ソフト 個別アプリケーション (3個まで)
		管理ポータル概要
		ユーザー追加手順
		Windows 365 接続方法

- ベーシックパックは、Windows 365 Business エディション、スタンダードパックは Windows 365 Enterprise による構成です。
- Microsoft 365 の構築は含まれません。既に利用中のお客様向けのプランです。Microsoft 365 新規構築および移行を検討中の場合、個別見積りとなります。
- 各種パラメーターは、ヒアリングシートにて決定します。
- インターネット回線、および専用回線の工事・設定は含まれません。
- 利用ユーザー数は25人を上限とします。26人以上の利用はオプション、カスタマイズでご提供しますのでご相談ください。
- 本構成では、ファイルサーバーやその他サーバー、ネットワークなどのオンプレミス側デバイスとの接続はできません。
- ベーシックパック (Windows 365 Business) では、既存 Active Directory への参加、統合はできません。
- スタンダードパック (Windows 365 Enterprise) では、既存 Active Directory と接続(ドメイン参加)します。Active Directory の調査、構成変更は含まれません。Azure への移行など、Active Directory の変更を伴う場合はカスタマイズになります。
- 個別アプリを3個までインストールします。4個以上はオプションです。個別アプリのトラブルシューティングは含まれません。アプリのインストールファイルが EXE または MSI 形式で提供される場合に限りです。ネットワークプリンタドライバは、1種類を1個のアプリとしてカウントします。
- Intune 設定は Windows 365 に必要な最小構成のみとなります。
- Microsoft 365 アプリのVDI利用は、マイクロソフトのライセンス条項に則り、共有コンピューターのライセンス認証ができる Microsoft 365 Enterprise for Apps を含むプランないしは、Microsoft 365 Business Premiumが必要です。

Azure Virtual Desktop 導入支援サービス

個別要件にあわせて、
カスタマイズでのご提案も可能です。

Azure Virtual Desktop 導入支援スタンダードパック		
Azure Virtual Desktop 導入支援スタンダードパック	想定販売価格 (税抜) ¥710,000	
認証基盤	Azure AD Domain Services 構築	
Azure Virtual Desktop 構築	AVD 構築	OS 設定
	アプリケーション追加	Microsoft 365 アプリ
		Teams
		OneDrive PDF リーダー
		ファイル圧縮・展開ソフト 個別アプリケーション(3個まで)
		ホストプール数: 上限 2
	電源管理設定	定期スケジュールによる起動・停止例 毎日 8:00 起動/18:00 停止
ユーザープロフィール設定	Azure Files 使用	
基本操作 マニュアル	電源管理スケジュールの変更	
	仮想マシンの手動開始・停止	
	AVD 接続方法	
	ユーザー追加手順	

- 各種パラメーターは、ヒアリングシートにて決定します。
- インターネット回線、および専用回線の工事・設定は含まれません。
- サーバー、ネットワークを含むオンプレミス側デバイスの設定は含まれません。
- 利用ユーザー数は25人を上限とします。26人以上の利用はオプション、カスタマイズでご提供しますのでご相談ください。
- Azure AD Domain Services の利用を前提としています。
- 本構成では、既存 Active Directory への参加、統合はできません。
- 個別アプリを3個までインストールします。4個以上はオプションです。個別アプリのトラブルシューティングは含まれません。アプリのインストールファイルが EXE または MSI 形式で提供される場合に限りです。
- ネットワークプリンタドライバは、1種類を1個のアプリとしてカウントします。
- Microsoft 365 アプリのVDI利用は、マイクロソフトのライセンス条項に則り、共有コンピューターのライセンス認証ができる Microsoft 365 Enterprise for Apps を含むプランないしは、Microsoft 365 Business Premium が必要です。

Citrix DaaS Standard for Azure 導入支援サービス

個別要件にあわせて、
カスタマイズでのご提案も可能です。

Citrix DaaS Standard for Azure 導入支援ベーシックパック		
Citrix DaaS Standard for Azure 導入支援ベーシックパック (25ユーザー)	想定販売価格 (税抜) ¥476,000	
Azure 環境構築	仮想ネットワーク設定	
	Fslogix 設定	Azure Files 使用
Citrix DaaS 構築	OS 設定	
	アプリケーション追加	Microsoft 365 アプリ
		Web ミーティング用アプリ
		OneDrive
		PDF リーダー
		ファイル圧縮・展開ソフト 個別アプリケーション (3個まで)
	電源管理	定期スケジュールによる起動・停止
基本操作 マニュアル	電源管理スケジュールの変更	
	仮想マシンの手動開始・停止	
	ユーザー追加手順	
	CVAD 接続方法	

Citrix DaaS Standard for Azure 導入支援スタンダードパック		
Citrix DaaS Standard for Azure 導入支援スタンダードパック (25ユーザー)	想定販売価格 (税抜) ¥680,000	
Azure 環境構築	仮想ネットワーク設定	
	Fslogix 設定	Azure Files 使用
	オンプレミスとの接続	VPN 設定 既存 Active Directory との接続
Citrix DaaS 構築	OS 設定	
	アプリケーション追加	Microsoft 365 アプリ
		Web ミーティング用アプリ OneDrive
		PDF リーダー
		ファイル圧縮・展開ソフト
	電源管理	個別アプリケーション (3個まで) 定期スケジュールによる起動・停止
	基本操作 マニュアル	電源管理スケジュールの変更
仮想マシンの手動開始・停止 ユーザー追加手順		
CVAD 接続方法		

- 各種パラメーターは、ヒアリングシートにて決定します。
- インターネット回線、および専用回線の工事・設定は含まれません。またサーバー、ネットワークを含むオンプレミス側デバイスの設定は含まれません。
- 利用ユーザー数は25人を上限とします。26人以上の利用はオプション、カスタマイズでご提供しますのでご相談ください。
- ベーシックパックは Work Group での利用が前提です。スタンダードパックは既存 Active Directory と接続(ドメイン参加)します。
- 個別アプリを3個までインストールします。4個以上はオプションです。個別アプリのトラブルシューティングは含まれません。アプリのインストールファイルが EXE または MSI 形式で提供される場合に限りです。
- ネットワークプリンタドライバは、1種類を1個のアプリとしてカウントします。
- Microsoft 365 アプリのVDI利用は、マイクロソフトのライセンス条項に則り、共有コンピューターのライセンス認証ができる Microsoft 365 Enterprise for Apps を含むプランないしは、Microsoft 365 Business Premium が必要です。

クラウドVDIを導入して、より安全で運用も手軽なテレワーク環境を構築しませんか？



クラウドVDI の導入をご支援します。

どのクラウドVDIサービスを利用するのがいいの？

サービス選定から
アドバイスします！



トレンドや他社事例等を踏まえ、御社の業務に最適なサービス、必要な性能をご提案します。

従量課金だと
結局いくらかかるか
わからず予算化できない。

想定費用の算出を
お手伝いします！



システム用途や必要スペックをいただければ、Azureでの推奨構成を作成し、月額の想定費用を可視化します。

購入後の技術サポートは
受けられるの？
もし、障害が発生したら
どうしたら...？

アフターサポートも
お任せください！



ライセンスにはアフターサポートが付属しますので、ご安心ください。クラウドサービスの標準機能、障害に関するお問い合わせなどに対応させていただきます。



TD SYNEX株式会社

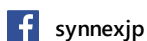
〒135-8559 東京都江東区東陽6-3-1 東京イースト21 ビジネスセンター2F

●本サービスに関するお問い合わせ

TD SYNEX株式会社 Microsoft CSP クラウド相談デスク

jp_microsoftcsp@tdsynnex.com

<https://www.synnex.co.jp>



synnexjp



synnexjp